低炭素杯２０１２　ファイナリストへのアンケート結果

調査の概要

低炭素杯２０１２の目的である、「全国各地で展開されている低炭素社会をつくるための活動を報告し、学び合い、連携の輪を広げる場を提供すること」に対するファイナリストの低炭素杯に対する評価を把握し、今後の企画・運営の参考とします。

調査方法

アンケート調査票を当日にファイナリストの代表者に配布。
アンケート調査票の回収は、受付の回収ボックスにて集めました。未回収団体に対しては電話にて催促を行い、郵送及びメール・FAX にて集めました。

調査対象　低炭素杯２０１２ファイナリスト（41 団体）
回 収 数　41 団体（回収率：100%）
実施時期　2012 年2月 18 日・19 日

調査項目

問１　当日のフォーラムに対する満足度
問２　現在の活動の継続や推進に対する効果
問３　現在の活動以外の新たな活動の開始に対する効果
問４　他の団体との情報交換・交流に対する効果
問５　他の団体と協力した活動の開始に対する効果
問６　自由回答

調査結果

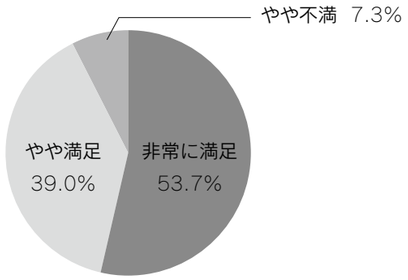
調査項目　当日のフォーラムに対する満足度

問１　低炭素杯２０１２の内容は、貴団体にとってどれくらい満足できるものでしたか。

選択肢	非常に満足	やや満足	やや不満	かなり不満
回答数	22	16	3	0

主なコメント

- 他団体の取り組みやプレゼン方法が大変参考になり、貴重な体験ができた。
- ファイナリストとして出場できたことに感謝している。
- 地域の活動を全国的に発信できる機会となった。
- とにかく良い勉強になった。他の団体の発表を見て刺激を受けた。
- 様々な活動を知るきっかけにもなり、また、他の国での環境の考えやグローバルな活動、東日本大震災での活動も知ることができた。
- プレゼン時間が短く、わかりづらい取り組みもあった。
- やはり４分で活動内容を全て伝えるのは大変難しい。



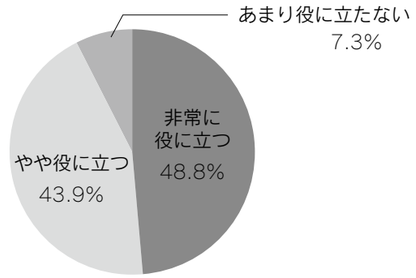
調査項目　現在の活動の継続や推進に対する効果

問２　貴団体が今後、『現在の活動を継続し、さらに広げていく』ために、低炭素杯２０１２はどのくらい役に立つものだったと思いますか。

選択肢	非常に役に立つ	やや役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない
回答数	20	18	3	0

主なコメント

- 広げるための手段の参考になった。
- 自分たちの活動を「見える化」し、表現していくことの方法や大切さを感じた。
- 会場来場者のみならず、メディアを通じることで広く世の中に知ってもらうきっかけとなると思った。
- 低酸素杯での発表を通じて、自分たちの取り組み、活動を周知できることにより、同じ方向性を持つ仲間が増え、広がっていくと思う。
- 一次通過だけでも知名度を上げることができた。
- HP のアクセス数が増加した。
- 賞をいただくことで、私たちの活動への理解が広がった。それが活動を後押ししてくれる。
- エコ活動に関するアイデア、進め方について、参考になる事例がいくつかあり「これは使えるかも」と思えた。
- 私たちの活動であるバイオディーゼルの取り組みがすでに全国でいろいろな形で行われていることがわかり、継続方法の参考となった。



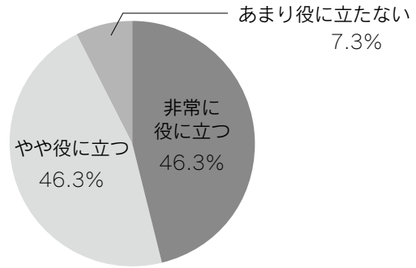
調査項目　現在の活動以外の新たな活動の開始に対する効果

問３　貴団体が今後、『現在の活動に加えて、新たな活動を始める』ために、低炭素杯２０１２はどのくらい役に立つものだったと思いますか。

選択肢	非常に役に立つ	やや役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない
回答数	19	19	3	0

主なコメント

- 地域的な考えから新しい世界を知った。
- 自分たちの活動を頑張りながら、地域社会や住民の人たちの協力をいただきながら毎年少しづつ活動の輪が広がっていくことが大切。
- 他の団体の取り組み。活動の発表を聞くことにより、新たなアイデアにつながる可能性がある。
- 同じ発想、近い発想の方が居ることでパワーを感じた。同じ発想でも、私ならこうする、こうしたいというさらなる発展もできる。
- 人脈が勝手に広がった。まわりに面白い人がいて刺激になった。
- Kirsten Bound さんの「チャンスは資産。何かから始めましょう」というお話は、心に残った。
- 新たな活動という意味ではなく、新たな運営、手法等ということでは役に立った。

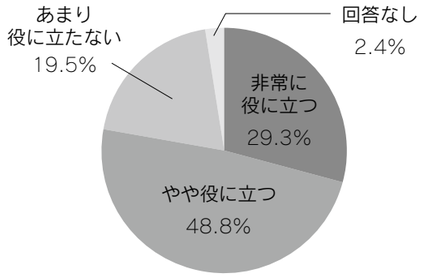


調査項目　他の団体との情報交換・交流に対する効果

問４　貴団体が今後、『地域で活動を行う他の団体と継続的に情報交換や交流を行う』ために、低炭素杯２０１２はどのくらい役に立つものだったと思いますか。

選択肢	非常に役に立つ	やや役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	回答なし
回答数	12	20	8	0	1

主なコメント



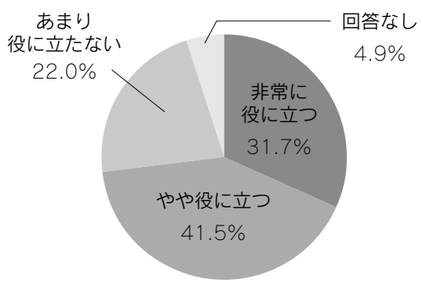
- 低炭素杯の出場は地域メディア等で話題として取り上げられる機会が多いので、団体のＰＲになり、他団体との交流もし易くなる。
- 地域的に近いところでも、その情報はなかなか入らないもの。ここで大きく情報提供してもらえたので、今後交流が広がる。
- 活動の多様性、地域の努力が具体的にわかり刺激的。
- なかなか他の地域の団体と出会うきっかけがなく、その意味では貴重な機会だった。
- 経営と環境を目指す中に生かせることもいくつかあった。
- 交流会を充実させては。今年は会場が狭かった。
- ここでの交流をきっかけに連絡を取り合うことができるようになった活動とは今後も連絡をとり続けていきたいが、継続的な情報交換にはそれなりの場が必要である。ファイナリストやエントリー団体が自由に参加できるＳＮＳなどもあるとより交流の場になると思う。

調査項目　他の団体と協力した活動の開始に対する効果

問５　貴団体が今後、『地域で活動を行う他の団体と協力して活動を行う』ために、低炭素杯２０１２はどのくらい役に立つものだったと思いますか。

選択肢	非常に役に立つ	やや役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない	回答なし
回答数	13	17	9	0	2

主なコメント



- 低炭素杯に出場できた団体として、他団体から認められるため、協力関係を結びやすくなると思う。当研究会の小水力発電と小学生への環境教育、あるいは太陽発電とのコラボレーションなども考えられる。産学連携も考えられる。
- 地域で行っている役場や友好企業との中において、低炭素杯の他団体の取り組みを参考としたい。
- 共通のテーマで日頃の枠を超えて交流できた。
- 現状のやり方では個々の活動紹介どまりで実際の活動の協力・協働という所までは発展していない。こうした”杯”は活動紹介の場の提供だけにとどまらず、その後も参加者や受賞者の交流・情報交換の場の提供をも行ってほしい。

低炭素杯出場団体に対するアンケート結果

調査項目　自由回答

問６　低炭素杯２０１２について、ご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書き下さい。

主なコメント

- 41 団体のプレゼンを半日でやるのはきつい。30 団体×５分位で、企業部門は別枠で、もっと厳しい審査を（実績、有効性）。
- 発表時間の超過団体が多かった。
- ファイナルまで残れたのは非常にうれしいが、１日で 41 組のプレゼンはきつい！１団体４分の時間もきつい！
- 今回、初めて参加させて頂き、貴重な体験をすることができた。自分たちが大切にしていることを全国の皆さんに発信でき、嬉しい気持ちでいっぱい。
- やはり４分は少ない。できれば 10 分、せめて７～８分ほしい。
- 老若男女が参加したユニークな発表会で大変良かったと思う。発表時間について、きちんとルールを守らない所が多かったのは残念。
- この大会を多くの人たちに参加していただき、地域で行われている環境活動を多くの人に知ってもらいたい。
2011 年から始まるこの低酸素杯が長く継続し、更には参加者、参加企業、公官庁などが継続的に交流、情報交換できる場に成長してゆくことを期待している。
- 発表の資料集を発行してほしい。１～２頁。団体で発行していただくと、取り組みの参考に役立つ。
- 発表をユーストリーム等で流したり、会場に来ていない人にも発信できるようにしたらどうかなと思った。
- 今回初めて参加させて頂いたが、とても良い機会をいただくことができ、感謝している。
- 自分たちの取り組みを、短い時間で印象に残すという点ではパフォーマンスは良いと思うが、他の活動の参考になる（このような工夫で課題を解決した、最初は想定していなかったが、こんな波及効果があった等）という点では、目的を達し難い。また、時間を制限して、発表者も言いたいことを削って説明しているにも関わらず、１分以上も時間をオーバーしていることは公正とは言い難い。全体としてはとてもためになるイベントだと思うが、今後のやり方によっては「聞き手にとって参考になることを聞けるイベント」ではなく、単に「発信者がＰＲするだけのイベント」になってしまう可能性もあると感じた。
- 交通費・宿泊費用をご負担いただき非常にありがたかった（３名も）。交流の場もうれしかった。
- 低炭素杯２０１１に参加させて頂き、今年２年目。低炭素杯２０１２を目標に頑張ってきた。そして、低炭素杯２０１３に向けて頑張っていけたらと思っている。
- 環境省の支援を充実して、もっと権威のある大会にしてほしく思う。ファイナリストの選考をネットによる公選にすることで、多くの人に関心を持ってもらえればいいと思う。権威のある賞とするため、賞品を充実しては。ロレックス賞との提携などいかがだろう。

低炭素杯２０１１　出場団体へのその後の活動アンケート結果

調査の概要

低炭素杯２０１１の目的である「次世代に向けた低炭素な社会を構築するために、CO_2 削減の国民運動として、学校･家庭･有志・NPO・企業などの多様な主体が活動を報告し、学び合い、連携の輪を拡げる場を提供すること」に対する出場団体のその後の活動と低炭素杯に対する評価を把握し、今後の企画・運営の参考とします。

調査方法

アンケート調査票を郵送及びメールにて団体代表者に配布。
アンケート調査票の回収は、メール及び郵送にて事務局まで送付していただき、集めました。

調査対象　低炭素杯２０１１出場団体（47 団体）
回 収 数　47 団体中 29 団体　（回収率：61%）
実施時期　2011 年 11 月 17 日～ 28 日

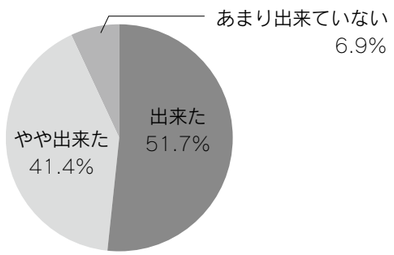
調査項目

問１　活動の継続と展開について
問２　新しい活動について
問３　他団体との情報交換・交流について
問４　他団体と協力した活動の開始について

調査結果

調査項目　活動の継続と展開について

問１-（１）
貴団体は、低炭素杯２０１１参加後に『低炭素杯２０１１までの活動を継続し、さらに広げていく』ことが出来ましたか？



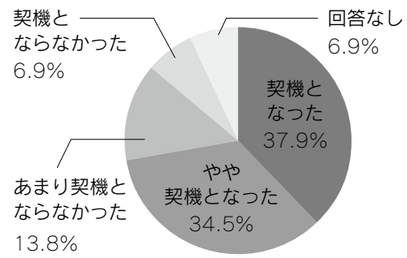
選択肢	出来た	やや出来た	あまり出来ていない	出来ていない
回答数	15	12	2	0

低炭素杯出場団体に対するアンケート結果

問１-（２）
問１-（１）にて『出来た』『やや出来た』を選択された場合：
低炭素杯２０１１への参加が契機となりましたか？

選択肢	契機となった	やや契機となった	あまり契機とならなかった	契機とならなかった	回答なし
回答数	11	10	4	2	2

主なコメント



- 地域ではなく全国版の受賞のため、まわりからの反響も大きく、今までの活動が認められるようになった。
- 「低炭素杯」の受賞は、活動の社会的評価の向上につながり、活動をさらに広げていくうえでプラスの効果があった。
- 様々な地域団体の取り組みを聞かせていただいたことで、年齢や性別を超えた同志の輪を体感することができ、同じ目標に向かって取り組んでいくことの素晴らしさを実感することができた。
- 対外的な信用度が増して活動が広がった。環境貢献企業としての知名度が上がった。
- 草の根的な地域活動の重要性を再認識した。
- 当団体の活動を地域社会に広報宣伝するための契機となった。
- 東北地方の震災影響が私共の業界にも大きく影響し『低炭素杯 2011』を契機に活動を大きく広げることができなかった。
- 第１回ストップ温暖化大作戦に参加して以来注目し続けているので特に今回の低炭素杯が活動拡大の契機になってはいない。

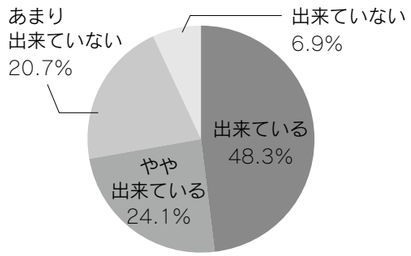
問１-（３）
問１-（１）にて『出来た』『やや出来た』を選択された場合：
どのような『新たな活動を始める』ことが出来たのか、具体的にご記入下さい。

主なコメント

- 受賞した事で地元メディアに取り上げてもらったため、各所での説明会、プレゼンの機会が増え、それに賛同する人達が同じ取り組みに向かって活動している。
- 高校生（農高生）の役割が認められ、環境活動の輪が広がってきた。小中学生への出前授業や地域の環境イベントに積極的に参加することができた。
- 環境に限らない「大学ランキング」という雑誌に、当団体のエコ大学ランキングの情報が掲載（予定）されるなど、普及媒体が多様化した。
- 県・自治体などから活動が評価され支援体制が継続されている。
- 活動は京都府教育委員会にも高く評価され､今年度は新たにグラップル（高性能林業機械）備品として導入していただき、さらに効率のよい山林作業ができるようになった。

調査項目　新しい活動について

問２-(1)
貴団体は、低炭素杯２０１１参加後に『低炭素杯２０１１までの活動に加えて、新たな活動を始める』ことが出来ましたか？



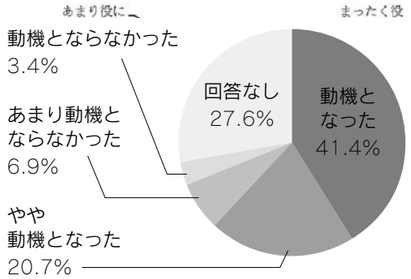
選択肢	出来ている	やや出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
回答数	14	7	6	2

問２-（２）
問２-（１）にて『出来ている』、『やや出来ている』を選択された場合：
低炭素杯２０１１への参加が役に立ちましたか？

選択肢	動機となった	やや動機となった	あまり動機とならなかった	動機とならなかった	回答なし
回答数	12	6	2	1	8

主なコメント

- プレゼン内容を各所で発表した事により、異業種から視点または観点のちがうアイデアをもらった事により新たな活動に活かせている。
- 他参加団体の発表内容から、ＣO_2削減活動をやらされているのではなく自ら楽しみながら実践していくことの大切さに気づくことができた。
- 地域皆で、楽しくやっている活動が、大きな評価 (準グランプリ) をいただき、皆を更にやる気にさせた。
- 低炭素活動の計画は参加する以前からあったため、必ずしも参加が動機であるとは言えない。



問２-（３）
問２-（１）にて『出来た』『やや出来た』を選択された場合：
どのような『新たな活動を始める』ことが出来たのか、具体的にご記入下さい。

主なコメント

- 農業分野に重点を置いた活動でしたが、工業・産業分野への活動も始める事ができた。
- エコに関する新しい補助金のシステムができた。
- エコと年配者中心の健康、生きがいづくりを活性化させた。

問２-（４）
問２-（１）にて『あまり出来ていない』、『出来ていない』を選択された場合：
その理由をお書き下さい。

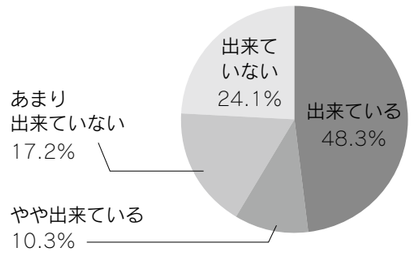
主なコメント

- 『低炭素杯２０１１』において、他参加者の取り組みは今後のために大いに参考になったが、それをまだ実践するには至っていない、その理由として東北地方の震災影響が私共の業界にも大きく影響した。

低炭素杯出場団体に対するアンケート結果

調査項目　他団体との情報交換・交流について

問３-（１）
貴団体は、低炭素杯２０１１参加後に『地域で活動を行う他の団体と継続的に情報交換や交流を行う』ことが出来ていますか？



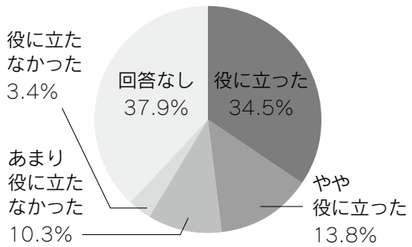
選択肢	出来ている	やや出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
回答数	14	3	5	7

問３-（２）
問３-（１）にて『出来ている』、『やや出来ている』を選択された場合：
低炭素杯２０１１への参加が役に立ちましたか？

選択肢	役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	回答なし
回答数	10	4	3	1	11

主なコメント

- この発表会を機に情報を得て交流が開始されたから。
- 積極的に地域の方々へ情報を発信していくことの必要性、また連携を深めていくことの大切さを認識することができた。
- 当団体への評価が高くなった。
- 活動を知ってもらうには良い機会だったと思う。



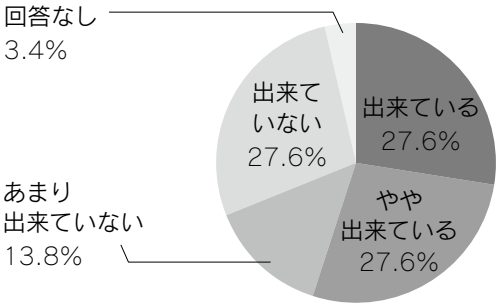
問３-（３）
問３-（１）にて『出来ている』、『やや出来ている』を選択された場合：
どのように『情報交換や交流を行う』ことが出来ているのか、具体的にご記入下さい。

主なコメント

- 他団体と内容はそれぞれ違うものの、目指しているものは同じなため、お互いに指摘したり吸収したり相乗効果に繋がっていると思う。
- 他大学で活動している学生や教職員に本委員会の活動に興味を持ってもらい、情報交換や交流の場を設ける機会が数回あった。
- 自分たちのチームでつくった試作品を他の参加者に広めることができた。
- 地域活動の菜の花プロジェクトを通じて、農業団体との連携の元、栽培・収穫・搾油・地域消費・回収・燃料への再生・供給と云った循環が活動として定着している。

調査項目　他団体と協力した活動の開始について

問４-（１）
貴団体は、低炭素杯２０１１参加後に『地域で活動を行う他の団体と協力して活動を行う』ことが出来ていますか？



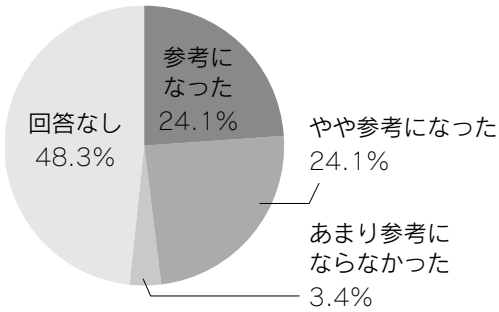
選択肢	出来ている	やや出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	回答なし
回答数	8	8	4	8	1

問４-（２）
問４-（１）にて『出来ている』、『やや出来ている』を選択された場合：
低炭素杯２０１１への参加が参考となりましたか？

選択肢	参考になった	やや参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	回答なし
回答数	7	7	1	0	14

主なコメント

- 地域だけでなく、広い世界と交流ができ意識が高まってきた。
- 弊社の取り組みを知っていただくことで他の団体との連携が実現でき、より発展した取り組みに繋がる事を実感できた。
- 同じ埼玉県内で、「緑のカーテン」活動をしていきたいという他団体より連絡をいただき、講師として呼ばれ、その後も交流をしている。



問４-（３）
問４-（１）にて『出来ている』、『やや出来ている』を選択された場合：
どのように『他の団体と協力して活動を行う』ことが出来ているのか、具体的にご記入下さい。

主なコメント

- 市内エコメーカーと交流ができ、「ものを大切にする」運動を協同展開することの合意が得られた。
- 以前から、地域で活動しており、自然エネルギーの活用に取り組む『ひだ自然エネルギー協議会』（種々の産業・団体及び市民が参加）を通じ、また行政とも密接に連携しながら環境対策に取り組んでいる。

問４-（４）
問４-（１）にて『あまり出来ていない』、『出来ていない』を選択された場合：
その理由をお書き下さい。

主なコメント

- まだ、自分達の活動を確立させる事を第一優先に考えているから。
- 他団体との交流は、接点が少ない。今後、バイオ燃料の導入を考えており、他団体との交流も有り得ると思う。